

部会員の皆様へ

図書館学教育部会長 渡辺 信 一

いつの間にか夏の風情が漂う季節となりました。皆様にはいかがお過ごしですか。このたびの選挙で再度、お役目をお受けいたしました。教育部会にとりまして非常に大切な時期に非才ではありますが、この1年間、何とか微力を尽くしたいと存じます。どうかよろしく願ひいたします。

同じく選挙の結果、選ばれた旧幹事のうち、渋谷嘉彦・常盤繁の両先生には、ご在任中、格別のご尽力をたまわりましたが、学内事情により止むをえずご辞退。代わって藤野幸雄(図書館情報大学)、小田光宏(獨協大学)の両先生が一翼を担ってくださることになりました。また、今まど子・柴田正美・岡田靖・朝比奈大作・原田隆史の各先生方は、引き続きのお役目です。よろしく願ひいたします。

現時点での「図書館学教育／養成の現状と問題点」については、『図書館雑誌』(本年6月号p418～422)をご覧いただくとして、ここでは、幹事会で話し合った本年度の部会の視点なり、方向性をごく簡潔に申し上げたいと存じます。

まず現状認識としては、日図協の事業計画に從來から明示されている“図書館員の専門性を高める”とともに“司書養成教育の内容改善を図る”云々に待つまでもなく、教育部会は少なくとも過去10年以上にわたってレベルアップのためのカリキュラム改定を強力にめざしてきたわけであり、それなりの取り組みがなされてきた次第です。それと同時に文部省生涯審専門委員会での動向に対して少なからぬ関心と対応を講じてきたのでありますが、昨年12月にさして具体的な結論が出ないままにこのレベルでの審議は終了しております。今後の予断は許さない情勢にはあるものの、この1年間は、従前にも増して教育部会の主体性に基づく、未来を志向する取り組みが求めら

れている、という認識のうえに立つものであります。

そのような観点から、きたる8月に行われる研究集会（於、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス）では、「マルチメディア時代における図書館情報学教育」をテーマに、今後の図書館情報学教育のあり方を求めて、慶応大FSCの見学とレクチャアならびに事例報告、そして教育部会としての取り組みと課題について討議をはかるものであります。また10月に行われる全国図書館大会第12分科会（図書館員養成）では、通例のプログラムのほか、近年、「図書館・読書振興法」の制定以来、大きく成長発展を遂げつつある、韓国のライブラリアンシップについて、その先進的な図書館法を中心にした発表・報告；わが国の代表的ライブラリースクールである、慶應義塾大学図書館・情報学科や図書館情報大学など、カリキュラムに関連してその経緯と事例を中心に、あるいは調査の結果をもとに発表・報告を予定し、「生涯学習社会と情報化時代に求められる図書館学教育」のあり方を模索するものであります。

図書館学教育／養成を取り巻く客観的情勢は、きびしいものがあり、図書館学／司書課程、ひいては教育部会は、ともすれば、その存立基盤が揺らぎがちであります。現実の問題として専任教員不在や学部改組・再編に伴う事柄は、かねてより指摘のとおり、われわれにとって重大な問題であります。まず、実態を知り、それに対応する施策を講じる必要があります。部会員諸氏の意識調査に対し、ご回答たまわりますよう、ご協力をお願いいたたく存じます。一方、選挙制度では、多選や当選辞退、そして専従／非専従の取り扱いなど、制度検討の余地があり、去る4月の幹事会では選挙制度検討委員会の設置を提案・承認されました。平野委員長のもとに慎重審議のうえ、年内には結論が出される予定です。

教育部会では、1978年に図書館学教育全国計画委員会を設置、わが国における将来の図書館員の養成に関し、適切な全国計画を策定するために実態調査をし、その分析の結果を報告書にまとめて刊行（1980、1982、1984各年の3回にわたり）しております。さらにさかのぼっては、シラバスの研究やまとめ（1950年後半～1970年半ば）など、部会としての“大型プロジェクト”への取り組みが近年、（カリキュラムの件は別として）疎かになっております。部会員の皆様からのご提言がいただけると幸いです。

当然のことながら、部会員諸氏の価値観なり、経歴は異なるところであります。また身分的に置かれたお立場は、他の学問領域よりも多様であり、そのような状況下で、私のなし得ることには限界があります。わが国においてライブラリアンシップが確立され、明日への向上・発展のためにお互いに協力しあい、次ぎの世代へ引き継いで行かれるようにと願っております。

部会総会の報告

日時：1995（平成7）年5月26日（金）

（10時開会）

場所：東京芸術劇場会議室

参加者の自己紹介の後、議長に塩見昇氏を選出し、議事に入った。

I. 報告事項

1. 平成6年度事業報告

総会資料に基づき渡辺信一部会長より報告。

2. 平成6年度決算報告および会計監査報告

芦谷清、黒岩高明両会計監査による会計監査報告も併せて、原田隆史会計担当幹事より報告。会費督促事務が遅れ、赤字となっているが、近日中に事務処理を完了し、解消の予定であるとされた。

3. 選挙結果報告

平成6年度末に行われた役員選挙の結果について、選管委員でもあった小田光宏幹事より報告され、併せて渡辺信一部会長より指名幹事及び各幹事の役割分担について紹介された。

4. 『日本の図書館情報学教育1995』について

原田隆史担当幹事より、3月27日付で刊行されたことが報告された。

以上の4点につき、いずれも異議なく承認された。

II. 審議事項

1. 平成7年度事業予定

渡辺信一部会長より下記の各事業案について、配布資料に基づく説明が行われた。

ア. 全国図書館〈新潟〉大会第12分科会

日時：10月26日（木）

テーマ：図書館学の展開と再構築Ⅳ：

生涯学習社会と情報化時代に求められる図書館員養成

イ. 第25回図書館学研究集会

日時：8月25日（金）～26日（土）

場所：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

テーマ：マルチメディア時代における図書館情報学教育

ウ. 会報の発行 年2回（第40・41号）発行の予定

エ. 全国の調査（学部学科改組問題／専任教員不在問題）の実施

オ. 選挙制度改革の検討

選挙制度改革検討委員会委員長：平野英俊氏：
委員：渋谷嘉彦氏、戸田慎一氏；担当：小田光宏幹事

カ.（図書館学教育改善に関わる全国規模の）プロジェクトの企画・検討

2. 1995年度予算案

原田隆史会計担当幹事より別表の通り報告・説明された。

以上の2点につき一括審議が行われ、特に全国調査の意義・方向性・選挙制度改革との関係、プロジェクト立案の方針等について質疑応答が行われたが、審議の結果、いずれも原案通り承認・決定された。

議事録署名人：築山信昭◎
（議事録作成：朝比奈大作）

1. 1994（平成6）年度主要活動

(1) 部会総会

1994年5月27日 於 東京芸術劇場会議室
議題ア. 平成5年度事業報告及び会計報告
イ. 平成6年度事業計画及び予算(案)

(2) 第80回全国図書館(鳥取)大会第11分科会

日時：10月27日 9：30～16：00

場所：県民文化会館会議室

テーマ：図書館学の展開と再構築（Ⅲ）

報告者：中島正明、小田光宏、今まど子、
緑川信之、田村俊作、常盤 繁、
戸田慎一、原田隆史、渡辺信一、

柴田正美, 渋谷嘉彦

(以上, 発表順)

司会者: 朝比奈大作, 岡田 靖

運営委員: 渡辺信一, 中島正明

(3) 研究集会

日 時: 1995年 3月14日

場 所: 駿河台大学文化情報学部

テーマ: 図書館情報学と“Archives”との
融合

講 師: 安澤秀一, 戸田光昭ほか

部会報告: 渡辺信一

(4) 『会報』発行4回: 第37, 38 (部会役員
選挙関係), 臨時 (阪神大震災救援関係),
39の各号

(5) 『日本の図書館情報学教育1995』編集・
発行 (前年度より継続)

(6) 図書館学教育改善への取り組み: カリキュ
ラム改定問題 (継続)

2. 幹事会議事録 (抄) は, 「会報」に掲載ずみ
第1回4月2日, 第2回4月17日, 第3回
5月14日, 第4回5月27日 (部会総会のあと),
第5回7月3日, 第6回8月24日, 第7回10
月2日, 第8回12月10日, 第9回2月10日,
第10回3月14日にそれぞれ開催。

3. 阪神大震災被害調査 (1995年2月6日実施
被調査者: 阪神被災地区に自宅/勤務先のある
図書館学教育担当者・約50名)

4. 1995年度の課題

- (1) 省令科目見直しへの対応/改定後の取り
組み (継続 状況に応じて緊急研究集会など)
- (2) (専門職としての図書館員養成をめざし
て) 部会原案 (24単位案 昨年2月, 理事
会/評議員会採択) の推薦ならびに同案に
基づくシラバス作成
- (3) (図書館学担当者の) 専任不在の問題及
び学部・学科改組の問題について取り組み
- (4) 部会役員選挙規定の見直し
- (5) その他

5. 1994年度決算報告

[収入の部]

費 目	予算	決算	差	備考
会 費	432,000	22,000	▲401,000	
交 付 金	180,000	180,000	0	
雑 収 入	1,000	350	▲650	
繰 越 金	258,391	288,391	0	
計	862,391	460,741	▲401,650	

[支出の部]

費 目	予算	決算	差	備考
事務用品費	10,000	54,200	44,200	
手数料	12,000	600	▲11,400	
会議費	60,000	43,540	▲16,460	
通信費	90,000	76,440	▲13,560	
交通費	330,000	370,000	40,000	
人件費	30,000	36,000	6,000	アルバイト賃金
会報等印刷費	200,000	173,500	▲26,500	第37~第39号
研究集会等費	30,000	5,500	▲24,500	
調査・編集費	30,000	30,000	0	日本の図書館情報学教育
選挙管理費	70,000	50,505	▲19,495	
予備費	391	-379,544	▲379,935	
計	862,391	460,741	▲401,650	

6. 1995年度事業計画

- (1) 全国図書館 (新潟) 大会第12分科会 (図
書館員養成) の開催
- (2) 研究集会 (慶應義塾大学FSC) の開催
- (3) 『会報』 (第40・41号) 発行
- (4) 全国調査 (学部・学科改組問題/専任教
員不在問題) の実施
- (5) 選挙制度改革の検討
- (6) (全国規模の) プロジェクトの企画・検討
- (7) その他

7. 1995年度予算案

[収入の部]

費 目	
会 費	824,000
交 付 金	180,000
雑 収 入	1,000
繰 越 金	-379,544
計	625,456

[支出の部]

費 目		備 考
事務用品費	10,000	
手数料	24,000	
会議費	40,000	
通信費	70,000	
交通費	300,000	
人件費	30,000	アルバイト賃金
会報等印刷費	140,000	第40~第41号
研究集会等費	10,000	
予備費	1,456	
計	625,456	

役員選挙の結果報告

選挙管理委員長 平野英俊

第19期（任期：平成7・8年度）の部会役員選挙が、去る2月に行われた。有効投票者数は88人で、部会員の半（223×半以上=75人）を超え、選挙は成立した。しかし、当選者の内から就任辞退届けが提出されたので、それぞれ繰り上げ当選の手続きを取り、選挙管理委員会は、以下のように新役員を決定した。

幹事：渡辺信一、今圓子、柴田正美、朝比奈大作、小田光宏

会計監査：前島重方、古賀節子

その後、渡辺信一氏が部会長に選出され、さらに、岡田靖、原田隆史、藤野幸雄の3氏が部会長指名幹事として委嘱された。

なお、今回の選挙からは、1994年5月の部会総会での了承に基づき、被選挙権を有する「専従者」の解釈を拡大することとした。すなわち、本務校を持つ専従教員であれば、担当科目は問わず、「専従者」に含めることとした。

また、この専従・非専従の問題や、多選、当選辞退等の問題については、選挙制度検討委員会を設置して、選挙規約の改訂を含め、次期選挙までに、検討されることになった。

上記、「専従・非専従」につきましては、従前、被選挙権のある「専従」と、それをもたない「非専従」との解釈にやや明確さを欠く点があり、「専任」であっても、その方の担当科目や所属によって「非専従」との判断がくだされた時期がありました。いっそのこと、この枠を外しては、というご意見もあります。また、「多選」については、当選するからといって、部会長なり、幹事を何期も続け（させられるのは、おかしいという声もあり、また、「当選辞退」につきましては、部会役員としてすばらしい方々が当選をご辞退なさるのは、まさに国家的損失であり、「辞退権」を一回かぎりに制限すべきという声もあります。

開票結果

（但し、上位得票者のみ）

[幹事]			13	10	河井弘志
順位	票数	氏名	14	9	高山正也
1	40	①渡辺信一	15	9	石山洋
2	27	②今圓子	[会計監査]		
3	18	③柴田正美	順位	票数	氏名
4	16	渋谷嘉彦	1	11	①前島重方
5	14	長澤雅男	2	7	②古賀節子
6	13	吉賀節子	3	7	芦谷清
7	11	圭田修一	4	6	黒岩高明
8	11	平野英俊	5	6	渡辺信一
9	11	④朝比奈大作	6	6	高橋和子
10	10	⑤小田光宏	7	5	室伏武
11	10	常盤繁	8	5	長倉美恵子
12	10	塩見昇			

*得票数が同数の者には、選挙管理委員会で抽選により順位を付けた。

その他に、女性会員や若い世代の会員が役員に登用されやすい環境づくり、そして国公立や4年制大学/短大、そして望むらくは図書館情報学科/司書課程/司書講習/通信教育課程の声が反映されやすい役員構成が望まれるところでもあります。来年度の部会総会にお諮りいたしたく、このたび、平野委員長に選挙制度の見直しをお願いするとともに、部会員の皆様にはあらかじめご一考をたまわりたく願っております。（渡辺）

部会役員一覽

研究集会の報告／参加者の声

研究集会に参加して

菅原 春雄

今回の研究集会は当初、カリキュラム改定の動きと合わせて緊急研究集会を予定していたが、周知の如く、文部省の生涯学習審・計画部会の司書専門委員会では、カリキュラムに関する具体的な科目名や単位数に言及することなく昨年未結審したという状況から、一転して通常の研究集会、主として駿河台大学文化情報学部の概要・学内諸施設が主な内容であった。以前から我々は駿河台大学の文化情報学部のカリキュラムには図書館情報学とのかかわりで注目していたが、幸い日程上参加することができた。まず教育部会長渡辺氏のあいさつで開催主旨の説明、続いて慶應義塾大学の高山氏から「公文書館専門職員の養成カリキュラムについて」資料を用いて説明された。

まだ検討すべき課題も多いようであるが、司書養成のカリキュラムと合わせて今後注目すべきものと思われる。

続いてビジネスアワーでは、阪神大震災について、『日本の図書館情報学教育1995』の刊行の件などのお知らせ、で昼食。

午後から駿河台大学文化情報学部の概要説明が安澤学部長によって説明された。大学案内等にもあるように、平成6年4月開設された新しい学部である。文化情報学部には文化情報学科（映像情報コース・観光情報コース）と知識情報学科（知識コミュニケーションコース、レコード・アーカイヴズコース）で構成されている。文化情報学科は音響や映像・景観観光情報を基礎から学ぶ学習システムでカリキュラムの特色として非文字の情報を研究対象に、また観光情報を重点的に学習するの二つからなっている。一方、知識情報学科は、文化情報の専門メディアイーターを育成する科目群で、カリキュラムの

特色としては、新しい資料の組織化・検索方法の研究と組織の情報を集約化する研究であるという。

図書館情報学関連科目は知識コミュニケーションコースに多く見られる。他大学と異なることは利用者教育ないし情報リテラシーが問われる中、オリエンテーション科目として資料検索法、論文執筆法、研究調査法が開設されていることに注目した。いずれ他学部でも主題別研究調査法も教養科目に導入したいと検討していることは他大学でも見習いたいものがある。続いて、同大学の戸田氏から平成7年度から開講予定の司書課程のカリキュラム構想について説明され、最後のイベントは学内諸施設（AVセンター・図書館・情報科学センター）を見学・説明を受け、夕方、参加者による懇談会を開催して終了した。

（すがわら はるお：文教女子短期大学）

駿河台大学見学雑感

中多 泰子

3月14日（火）は、風はひんやりしていたが日射しはあたたかく、飯能までの道中は窓外にひろがる景色を楽しみながら小旅行の気分であった。

駿河台大学は飯能駅前から学バスで10分、小高い丘の上にそびえている。30万㎡の広大なキャンパスに建物が点在し、陸上競技場、野球場、テニスコートなどが整備されている。

本部棟の会議室で文化情報学部長安澤秀一先生から概要説明を受け、履修ガイドと部厚いシラバス、図書館利用案内など、重量感のある資料をいただいた。本年4月から開講している司書課程についても説明があった。

その後、施設を案内していただいたが、何よりも圧倒されたのは授業のために情報機器類が

整備されていることであった。各教室の情報機器をコントロールする集中管理室があり、教室での先生たちをサポートできる態勢がとられていて、これなら機械アレルギーの私でも安心して気軽に使うようになるだろうと実感した。

パソコンが数10台も備えてある室が2室あり、学生が実際にパソコンを使えるように環境が整えられている。それとは別に外部とネットワークを結んでいる室があって、世界につながっている。

図書館は独立棟ではなく、講義棟の3、4、5階である。コンピュータシステムが導入されていて、検索は便利である。図書館用敷地が体育館前に予定されていて、独立棟になる日もそう遠くはないであろう。

大勢の学生がキャンパス内で1日を過せるように、食堂も規模が大きく観葉植物があちこちに置かれ、ゆったりした雰囲気である。

豊島区の北区と板橋区の境にある我が大学のキャンパスと比べ、スケールの大きさ、設備の良さに感心した。ただあえて難を言えば、建築物の一つ一つは美しいかも知れないが、キャンパス全体でみた時に、全体としての統一美に欠けるかなという感じがした。これから発展し、年輪を重ねる中で味わいが出てくるのかもしれない。

充実した教授陣、フレッシュのびのびと才能を開花させることができる学生達、羨ましい環境だなとつくづく思い、このような機会を与えてくださった幹事の皆さまと、受入れて下さった大学の皆さまに深く感謝しながら、夕闇せまる中を帰途についた。充実した一日であった。

(なかた やすこ：大正大学)

駿河台大学訪問記

阪 田 蓉 子

小雨模様の朝、スクールバスを下り立つと、キャンパスは焦げ茶色の煉瓦造りの建物と広々とした緑の芝生でほぼ統一され、知育を育む爽やかな環境にあった。近くの小高い丘の中腹に

は駿河台大学の文字を記した看板が置かれ、学生に我がキャンパスという安堵感を与えている。
ファカルティ

国分氏、戸田氏、金氏ら懐かしい面々に出迎えられた。本年3月、京都外大セミナーで衛藤先生の代役を無事務めたということで、一躍有名になられた？桂啓壮氏の顔も見える。

文化情報学部

学部長の安澤先生にご説明を伺う。安澤先生といえ、いつだったか、KIT（金沢工業大学）の国際セミナーで、アーキビスト養成の問題で熱っぽく語られ、鋭い質問をしておられたことがとても印象に残っている。

文化情報学部は法学部、経済学部に加えて、大学の三本の柱のひとつであり、この学部で司書課程・学芸員課程を開講している。学科は、下記の如く、21世紀を迎えるにあたり、装いも新たに、職業教育と結合したユニークな学科で、今日の学生の関心を大いに呼ぶものであろう。

文化情報学科

(映像情報コース：観光情報コース)

知識情報学科

(知識コミュニケーションコース：レコード・アーカイヴズコース)

ことに興味を覚えたのは次の特色である。第一はオリエンテーション科目の設置である。

資料探索法、論文執筆法、研究調査法、プレゼンテーション法からなり、大学での4年間の学習研究に役立つばかりか社会に出てからも有用である、こういった科目を1年次に開講しておられることだ。

第二はこれは全学部共通であるが、一般教育科目のリベラル・アーツ・ゼミナールである。少人数による討論形式をとり、ものの見方・考え方を学ぶということだが、リベラル・アーツの特徴をよく活かしている。日本で従来一般的に実施され、問題の多かった大勢の学生相手に講義形式による弊害が解消されている。

コーヒーブレイク

昼食時には金氏に金券の買い方まで教えてい

ただいた。おまけにコーヒー券の買い方は？なんて言ったので、食後は金氏の研究室に招かれ、浜田先生、桂氏らと一緒に美味しいコーヒー、これがまた金氏お勧めのインスタント・ドリップ風コーヒー、をご馳走になった。室内に水場があり、はめ込み風で普段は戸棚のなかに収まっ
ていて、羨ましい限りの設備である。室内は広く、外の眺めも良い。

応接用の低いテーブルの上にノート型パソコンが置かれており、これは全教員に貸与されたものであるとか、教員も恵まれた環境にあることを感じさせられた。

施設：図書館と情報科学センターに加え、視聴覚センターを見学させていただいた。

視聴覚センター：教室等の設備管理のほか、視聴覚ブースの管理システムがよくできている。サーバー方式で利用者との現物のやりとりが必要なく、ブースに自動的に流れる。ブースの利用時間に関しても合理的である。センターは新しい器具が増えたせいか、少し手狭に感じたがこれはよく活動している証拠でもあろう。

地域との関わり

懇親会の折りに伺ったところによると、このあたりの敷地は大学が設置される以前から、オリエンテーリング場だったとのことで、今も大学を出発点として休日には愛好者が集い、大学はかれらの既得権を尊重し、構内への出入りも自由で協力を惜しまないとのことである。地域に根ざした、町の大学という印象を新たにした。

感謝

学部および学科の構成について学ぶところ大であった。今回の企画を立て、準備等をしてくださった戸田、高山、渡辺先生や幹事の先生方に深く感謝いたしますとともに、会場大学の諸先生方にもお礼を申し上げます。

お知らせ

懇親会の席上でも紹介させていただいたビデオについて、記します。

日本図書館協会の企画・監修のもとにライブラリー・ビデオ・シリーズ、「図書館の達人：司

書実務編」が7月初旬に発売されます。現職教育のみならず、司書課程・講習の教材としても役立つように作られています。3巻からなり、第1巻は『レファレンス・サービス』第2巻が『コミュニケーション』第3巻『ブックトーク』です。詳細は『図書館雑誌』7月号「完成披露架空記者会見」（仮題）をどうぞご覧ください。

（さかた ようこ：梅花女子大学）

付記。駿河台大学文化情報学部で、本年4月より開設の図書館司書課程コースは、専門必修に加えて32単位以上という科目・単位数を必要とし、担当者はすべて専任教員による、というのが同大学の大きな特徴であります。その他、同学部に併設の博物館学芸員コースでは、レコードマネージャーの育成を目指しております。(W)

JLA出版物のご案内

◆『日本の図書館情報学教育1995』

平成5年調査／図書館情報学開講大学一覧／担当者名簿／B5判・239p・定価5,000円(部会員価格3,500円→渡辺まで)備考：平成5年5月1日現在で図書館情報学を開講している大学・短大を対象に、開講状況、開講科目、教育担当者を調査・編集。95年3月刊行。

◆『海外図書館員の専門職制度 調査報告書』

図書館員の専門職制度の確立をはかる日本図書館協会では、助成金をもとに調査報告書をまとめた。すなわち協会では、竹内哲氏にアメリカの図書館で活躍する館長、教育・研究者との面接調査で職員制度、養成制度および問題点を、前園主計氏にはALAについて事業内容、専門職員制度について、小田光宏氏にはイギリスの専門職制度、LA養成制度について、白井静子氏にはスウェーデンの図書館職員の現状について、それぞれ委嘱し、報告書を作成した。B5判・50p・定価800円(送料共。切手使用可)ただし、残部僅少。94年12月刊行。

平成7(1995)年度 図書館学教育部会研究集会

とき：8月25日(金)～26日(土)

ところ：慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス

テーマおよび主旨：「マルチメディア時代における図書館情報学教育」

マルチメディア時代を迎え、今後の図書館情報学教育のあり方を求めて、慶應義塾大学SFCの見学とレクチャアならびに事例

報告、そして教育部会の取り組みと課題についても質疑／討議を行う。併せて参加部会員相互の交流をはかる。なお、第2日目には「SFCと図書館・情報学教育」をテーマに、特別講演（慶應義塾大学教授 高山正也氏）あり。ぜひ、ご参加ください。

☆詳細は同封「ご案内」をご参照ください。

全国図書館（新潟）大会第12分科会（図書館員養成）

テーマ：図書館学の展開と再構築Ⅳ：生涯学習社会と情報化時代に求められる図書館員養成

とき：10月26日(木) ところ：新潟県庁・講堂

この分科会の目的は、図書館員の養成や図書館学教育に関心をもつ全国の皆さんとともに、お互いに学び、意識と関心を高めることにあります。そして生涯学習社会と情報化時代に利用者から求められる図書館員養成をめざして理論と共通理念を再構築し、現実の問題に対処しようとするものです。

午前の部は、まず地元の図書館学教育／養成の立場にある方々より当該地区にある大学の図書館学／司書課程担当者、開講状況、資格取得者数、卒業後の就職状況、等々について、高島涼子氏（北陸学院短期大学）が調査の結果を発表・報告される予定です。次に、海外における図書館学教育／養成に関連ある動きとして、昨年は英米両国から帰国された方々に報告してもらいましたが、今年は近年、「図書館・読書振興法」の制定以来、大きく成長・発展を遂げつつある、韓国のライブラリアンシップについて、その先進的な図書館法を中心に金容媛氏（駿河台大学）に発表・報告をお願いすることになっ

ています。

午後の部は、この数年来、教育部会としては、文部省のカリキュラム改定の動きに対応して全力投球をしてきましたが、昨年12月の文部省生涯審・専門委員会の段階では、具体的な内容を明記することなく結審となりました。われわれとしては、当分の間、文部省の今後の動きに注意を払いながらも、教育部会をはじめ、日図協役員会及び会員諸氏の大方の承認を得た、(生涯学習社会と情報化時代に求められるカリキュラム改定をめざす)「日図協案」(柴田案)を根底に、今後の教育／養成のあるべき姿を模索して、

(A) 報告 と (B) 討議を行う予定です。すなわち、(A)では、わが国の代表的なライブラリースクールである、慶應義塾大学図書館・情報学科(原田隆史氏、発表・報告)と図書館情報大学(藤野幸雄氏、発表・報告)におけるカリキュラムに関連してその経緯と事例を中心に、現状と課題を論じてもらう予定です。それと同時に、今春から開設された中央大学大学院文学研究科図書館情報学専攻の新しいカリキュラムについて、今まど子氏より発表・報告がなされます。(B)では、カリキュラム問題や専任教員不在の問題及び学部学科改組の問題をはじめ、図書館学教

育／図書館員養成をめぐるさまざまな問題に関して、フロアと一体となって質疑・意見・提案を含む、活発なやりとりが行われることを願っております。分科会プログラム案と発表予定者は次のとおりです。

午前の部

高島 涼子氏（北陸学院短期大学）：北陸地区の図書館学教育／養成の現状と課題

金 容媛氏（駿河台大学）：韓国における図書館学教育／図書館員養成—図書館法を中心に

午後の部

「生涯学習社会と情報化時代に求められる図書館学教育／図書館員養成をめざして」

(A) カリキュラムを中心に（事例／調査報告）
原田隆史氏：慶應義塾大学図書館・情報学科について／藤野幸雄氏：図書館情報大学図書館情報学部について／今まどり氏：中央大学大学院・図書館情報学専攻について

(B) 現状と課題について（討議）発題／助言：
渡辺信一氏（同志社大学）／柴田正美氏（三重大学）ほか。

『日本の図書館情報学教育1995』発行のお知らせ



告知板

図書館雑誌 Vol.89, No.4 229

図書館学教育部会からのお知らせ

このたび「日本の図書館情報学教育 1995」（B5判 239ページ 定価5000円）が日本図書館協会より刊行された。本書は、図書館情報大学・緑川信之氏が調査・編集委員長となって、1993年5月現在で、全国の図書館情報学教育／司書課程設置大学を対象に実態調査を行い、まとめたものである。大学別開講状況や図書館学開講大学一覧、図書館学教育担当者名簿などが収載されている。そのうち、担当者名簿は最近の情報／異動までがフォローされている。

本書は単なる名簿ではなく、文字通り日本における図書館情報学／司

書課程の教育について、その現状や実態を十分に読み取ることが可能なしたがってきわめて有用なツールである。わが国における図書館員養成発展のために、図書館学担当者だけでなく、広くさまざまな人々によって本書が有効に活用されるよう願っている。

なお、部会員の申し込みは官製はがきに住所・氏名・勤務先を明記のうえ、5月末までに〒602 京都市上京区烏丸今出川 同志社大学文学部 渡辺信一へまで。最近、住所や勤務先に異動が生じた方はその旨お届けください。

（蛇足）

なぜ、上記の記事中、「なお、…」以下のように述べてあるかと申しますと、『図書館雑誌』には掲載できませんでしたが、そのように手続きをして下さると(1)価格5,000円が部会員価格3,500円になる。(2)後日、(教育部会から購入者

への) 正誤表のお届けが可能になる、といったメリットがあるように思います。記事では、「5月末までに」となっておりますが、今、しばらく渡辺の方で受付けさせていただきます。なお、ご住所のあと電話番号も書いてくださると好都合です。

日本の国情報学教育 1995

神達

幹事会議事録（抄）

1995（平成7）年度 第1回幹事会

A.（選挙による当選幹事会）

4月6日 13:50～14:10

於：日本図書館協会 4F会議室

出席者：渡辺、柴田、朝比奈

委任状提出：小田

議題1：部会長選出

出席者の互選により渡辺幹事を部会長に選出した。ただし公務多忙につき任期を全うできる状況にないとの申し出があり、幹事会として全力をあげて部会長をサポートすること、1年後を目処に部会長の意向を聞く機会を設けること、以上2点について幹事会として確認した。

2：部会長指名幹事選出

岡田靖、常盤繁、原田隆史の3氏に引き続き幹事として留任を要請することとした。ただし常盤氏については辞退したいとの意向があり、その説得方、ならびにどうしても引き受けていただけない場合の指名要請については、部会長に一任することとした。後者の場合には、できれば(1)図書館情報大学関係者、(2)短期大学の専任教員、(3)女性の幹事が望ましいとの合意を得た。

B.（新旧幹事による合同・引き継ぎ幹事会—選挙による当選幹事の幹事会に引き続いて（会場を変更して）開催された）

日時：4月6日 15:45～17:45

場所：慶應義塾大学三田キャンパス研究室会議室

出席者：渡辺、柴田、朝比奈、岡田、原田

（委任状提出：小田、常盤）

司会：渡辺幹事

報告事項

1. 部会長選出ならびに部会長指名幹事の指名について（朝比奈）

これに先立って行われた当選幹事による幹事会に於いて、上述の決定が行われたことが報告され、但し書きの部分をも含め、出席者全員の了承を得た。

2. 研究集會会計報告について（岡田）

収入：103,500円 支出：109,000円

幹事の分は後日精算するとのことであったが、赤字のため参加費についても幹事の個人負担とする。

3. 『日本の図書館情報学教育1995』の刊行について（原田）

予定よりも大幅に遅れたが、ようやく刊行された。時間の経過にともない二重・三重の調査を繰り返したので、“平成5年度調査”とうたってはいるが、判明した分については平成6年度のデータも入っている。整合性はなくなったが、読者の便を考えたためである。

審議事項

1. 幹事の事務分掌ならびに事務引き継ぎについて

1) 旧年度事務報告—引き継ぎ

会計/会員（原田）会費の督促をしていないので、収入不足となっているが、近日中に2期分をまとめて督促する予定。

調査（原田）（上記報告事項の3参照）前回の調査表を送付して、これを修正してもらうという調査方法は失敗で、結局すべて再調査しなければならなかった。5年後に次の調査が行われるならば、それまでの中間年に発表を予定しないまでも一応のデータ収集を試みる必要があると思われる。

2) 新年度事務分掌（任期2年）

3) 選挙制度の見直し

数年来の懸案であり、幹事の選挙制度を抜本的に見直すための委員会を設置する。「選挙制度検討委員会」（仮称）の人選等については、平野英俊氏に、また同委員会の部会としての窓口を小田光宏氏に依頼する。

2. 総会に向けて

1) 総会（5月26日）

当日はほぼ全幹事が出席可能、役割分担等は後日決定。総会資料作成に関し、事業報告の部分は部会長ほか担当幹事に委任し、次回幹事会で了承の手続きをとる。新年度の事業計画については以下に検討する。

2) 研究集會

以下の内容が検討され、一応の合意を見た。

・慶應藤沢キャンパスの見学会に講演会またはシンポジウム等を組み合わせる形で、2～3日の予定を考える。合宿形式も考慮の余地がある。

・慶應藤沢は土・日を避けてほしい。8月1・2週は一斉休暇の可能性があり、8月中旬から9月上旬なら可能であろう。

・2日予定で2日目に見学会ならば、1日目は「わが国における図書館情報学教育の課題」（仮称、下記の全国大会の内容に準ずるもの）を考えてみてはどうか。

3) 全国大会（新潟）第12分科会

以下のプログラムについて検討され、合意が得られた。

・北陸地区の図書館学教育

辻澤与三（富山女子短大）、村田修身（北陸学院短大）両氏からはまだ発表の応諾を頂いていない。高島涼子（北陸学院短大）、細田英夫（富山女子短大）両氏をも候補に、今後交渉を進める。

・外国の図書館事情

先年、図書館法、読書振興法を新たに制定した韓国の図書館事情について、駿河台大学の金容媛氏に発表を依頼する予定。

・午後は「わが国における図書館情報学教育の課題」として、シンポジウムないしはフリーディスカッションを企画する。基調報告または事例報告という形で、(1)「学科レベルでの課題」（慶應、図書館情報大、愛知淑徳大、駿河台大、中央大などの例）を原田幹事に、(2)「司書課程の課題」（専任不在の問題、学部・学科改組にともなう問題などを渡辺部会長にお願いし、これらに関してフロアからの関連報告、ディスカッションを期待する。

4) 決算（中間）報告／予算方針

決算報告あるいは総会の当日になるかも知れないとの前提で、以下の趣旨の報告が原田会計担当幹事からなされ、これを了承した。

・会費の督促をしていないので、現状では赤字であるが、会費が振り込まれればほぼ例年通りの決算となるはずであり、予算方針としても大きな変更はしない（できない）ことになろう。昨年度必要であった選挙管理費を「選挙制度検討委員会」の予算に充てれば、例年と同じく“きつい”予算ではあっても、一応の予算編成ができる。

3. その他

次回幹事会は4月22日（土）

第2回幹事会

日時：1995年4月22日 11：30～14：30

場所：慶應義塾大学三田キャンパス文学部会議室

出席者：渡辺、岡田、小田、原田、朝比奈（早退）

司会：岡田幹事

I. 報告事項

1. 会長指名幹事の補充について（渡辺部会長）

常盤氏が幹事就任を固辞されたため、藤野幸雄氏に図書館情報大学関係者の推薦を依頼したが、人選に苦慮されておられるようで、当面は藤野氏ご自身が幹事会にご出席下さるとのこと。

2. 幹事の事務分掌について（同）

常盤氏に分担していただくはずだった役割については当面ブランクとして、前回決定通りの事務分掌とする。

3. 前年度決算報告について（原田会計担当幹事）

別紙配布資料の通り。ただし「調査・編集費」「選挙管理費」については未確定。総会までに確定した報告をし、監査を終了させる予定。

4. 前年度事業報告・および今年度事業計画について（渡辺部会長）

別紙配布資料（部会長から事前に郵送されたもののうち、総会資料用として協会当て送付されたもののコピー）の通り。

ただし、上記配布資料のうち、「4. 1995年度の課題」には、「全国大会、研究集会、会報発行」等をつけ加えるものとする。

5. 『日本の図書館情報学教育1995』の配布・頒布について（渡辺部会長）

II. 審議事項

1. 研究集会について

・慶應藤沢キャンパス（FSC）見学会＋講演・シンポジウムまたはフリーディスカッション（計2日）を計画する。

・藤沢は宿泊に難あり、5月20日前後に日程は決定できる。8月下旬～9月上旬ならば見学会開催は可能である。また、高山正也氏に「FSCにおける授業」といった内容の講義を依頼することも可能である。（原田幹事）

・日程をたとえば“金・土”とするか“日・月”とするかで、見学会を第1日目にするか、第2日目にするかが決まってくる。またそれによって開始・終了時刻や懇親会の日時が決まり、宿泊施設等の問題が考えられねばなくなる。したがって、原田幹事に具体的な日時設定に関する交渉を委任し、日程決定後に具体的な検討を行う。

・シンポジウム（フリー・ディスカッション）のテーマとしては、「高度情報化社会における大学院教育」（原田幹事）「専任不在の問題、学部改組等にかかわる図書館学教育の問題点」（渡辺部会長）などが

考えられる。全体として「“司書養成”の観点を一歩離れて見た図書館学(教育)」の問題を扱いたい。

- ・原田・小田両研究集会担当幹事で原案を検討・作成して、5月26日(総会・幹事会)までに各幹事に予め原案を配布。検討してもらい、当日、報告(配布)してもらうことに決定。
- 2. 全国大会について
 - ・第12分科会のテーマ「図書館学の展開と再構築Ⅳ」を主たるテーマとし、サブタイトルとして“情報化時代と生涯学習時代における図書館学教育について”をつける。
 - 発表者 午前：高島涼子氏(北陸地区の図書館学教育)
金容媛氏(韓国における図書館学教育について—図書館法を中心に)
 - 午後：渡辺部会長・今幹事・原田幹事(わが国における図書館情報学教育の課題)
 - ・司会者・朝比奈・岡田・小田・柴田各幹事
 - ・受付(部会の入会受付を含む)：幹事の手のあいた者
 - ・運営：渡辺部会長(地元運営委員は今回はなし)
- 3. その他
 - ・選挙制度検討委員会(小田幹事)より
検討委員会メンバー 委員長：平野氏 委員：渋谷氏、戸田氏
報告期限は年内とする
予算は小田氏より委員長に聞いてもらい、その金額を総会の会計報告に入れる。
 - ・部会長より
教育部会で以前は図書館職員の需要・採用制度に関する調査を行っていたが、今は行っていないので継続したらどうか。その他のプロジェクトも行いたい。
→今回は提案のみとなった。
 - ・小田幹事・原田幹事より
図書館大会の発表等を部会の出版物として発行したらどうかとの提案があった。
→今回は提案のみとなった。

Ⅲ. その他

次回幹事会は5月26日(金)

第3回幹事会

日時：1995年5月26日(金) 12:10~13:00

(総会終了後)

場所：東京芸術劇場(池袋) 2F 第1会議室

出席者：渡辺、藤野、柴田、原田、小田、岡田(早退)、

朝比奈

Ⅰ. 報告事項

1. 部会費の請求につき、来月半ばまでには振込用紙を発送の予定。(原田)
2. 会報は6月中に発行の予定。個人会員には研究集会の案内をも同封する。(岡田)

Ⅱ. 審議事項

1. 研究集会について

- ・別紙原案通り。ただし第1日目の時間予定を30分ずつ繰り上げ、交流パーティー開始までに時間の余裕をとる。
- ・藤沢のホテルを10室程度予約しておく。
- ・『図書館雑誌』7月号のニュース欄に案内記事を掲載する。

2. 全国大会について

- ・午前の部の予定は既決の通り。
- ・午後の部前半は、「図書館学教育の新しいカリキュラムについて」①慶應の例(原田幹事による「卒業生に対するアンケート調査の結果報告」、または(分析が間に合わなければ)細野氏または高山氏による「ここ3年間のカリキュラム改定について」)②図書館情報大学の例(藤野幹事による「カリキュラムの改定について」)③中央大学の例(今幹事による「新設大学院のカリキュラムの改定について」)(演題はいずれも仮題)
- ・午後の部後半はフリーディスカッションの形で行う。

3. その他

- ・選挙制度検討委員会の予算について
昨年の選管費程度(@45,000円)を見込んでいる。(小田)
- ・第4回幹事会は8月26日研究集会終了時。
- ・緊急の案件がなければ、第5回の幹事会は10月26日全国大会分科会終了時。

あ と が き

「会報」は、部会当局の重要な機関紙であり、部会の情報や基本的な姿勢・考えを部会員の皆様にフランクにお伝えし、また部会員諸氏の声も反映すべく、絶えずお互いの意志疎通や親しみを感じさせるものでなければ、と存じます。図書館情報学教育に関する、かなりの情報—例えば、国内だけでなく、海外のニュースや文献紹介/消息そして提言なども含めて—が盛り込まれ、豊かな、充実した紙面となりますよう、今後とも皆様のご協力を心より願っております。
(編集責任：渡辺信一)